

令和5年9月29日

二宮町教育委員会議録

(定例会・臨時会)

二宮町教育委員会

- 1 開会時間 9時30分
- 2 閉会時間 10時59分
- 3 教育長名 森 英夫
- 4 署名委員 杉本 かおり
- 5 教育長及び委員

出欠席	職名	氏名
○	教育長	森 英夫
○	教育委員 教育長職務代理者	岡野 敏彦
×	教育委員	藤原 直彦
○	教育委員	杉本 かおり
○	教育委員	野谷 悦

- 6 出席者氏名
- | | |
|--------------|-------|
| 教育部長 | 椎野 文彦 |
| 教育総務課長 | 田嶋 卓司 |
| 教育指導担当課長 | 倉重 成歩 |
| 教育総務課課長代理 | 高谷 松慶 |
| 生涯学習課長 | 山下 昌志 |
| 教育総務課指導班長 | 安藤 通晃 |
| 教育総務課教育総務班長 | 高橋 梓 |
| 教育総務課教育総務班主査 | 添田 理代 |
- 7 傍聴者 0名
- 8 調製者 教育総務課教育総務班主査 添田 理代

1 開会宣言

(教育長) 令和5年度9月定例教育委員会議を開催します。

2 署名委員の氏名

杉本委員を指名する。

3 教育長事務報告

(教育長) 教育長事務報告を資料に基づいて行う。

(教育部長) 9月政策会議結果報告を資料に基づいて行う。

(各課長・指導主事) 各課の事務報告・事業予定・研修内容について資料に基づいて説明する。

- (岡野委員) 来年度の予算について、小中一貫教育の視察に係る費用を計上する必要があるか、研究会の原会長に確認をお願いします。去年、品川学園へ視察に行きましたが、学校の規模が大きかったので、規模の異なる学校を見るのはどうだろうかと個人的に思うところがあります。
- (教育指導担当課長) 確認します。
- (岡野委員) 教員の採用試験で技術や美術が定員割れということですが、対策等はあるのでしょうか。それとも、定員割れのままなのでしょうか。
- (教育長) 技術、美術の免許を取得できる大学数が少ない、免許を取得する学生が少ないといった事情があります。また、教員を志望する学生が減少している要因もあります。県教育委員会が地方の大学に訪問して、アピールをしている成果なのか神奈川県受験者が微増しましたが、焼け石に水という状況です。
- (岡野委員) 私立大学の約50%が定員割れをし、大学が成り立たなくなっているため、海外や民間会社からの登用などの対策が必要になってきています。採用は二宮町独自でできるものなのでしょうか。
- (教育長) まず、採用試験の試験問題は、県と横浜市、川崎市と作問検討委員会で、過去問題との照らし合わせや問題の整合性などを確認し、作っていますので、町単位で試験問題を作るのは難しいです。また、任命権者も県になっていますので、町独自で採用することは難しいです。相模原市も政令市になってから独自で採用試験をしています。試験問題は県のものを使用しています。
- (岡野委員) 小中学生の交流会はとても良い取り組みだと感じました。聞く方も話す方も、相手に理解できるように話す、という双方にとってメリットがあるのではないかと思います。小学校6年生は、小学校の最高学年という位置づけでその自負もあると思いますが、中学校やその先の学校等では、自分より様々な点で優れている人がいます。交流会は、先を見せていくという根本的な機能が備わっている活動だと思いますので、もっと積極的に取り組むことでみんなに良いことがあると思います。子どもたちを移動させるため

に時間等が取られてしまうなどご苦勞もあることと思いますが、それを上回るメリットがあると感じています。

- （指導班長） これからも、学校が取り組みやすい形にしていけるようにサポートを考えていきたいと思います。小学校6年生が中学生の授業を見ること、小学校5年生が6年生の授業を見ること、両方の試みを一色小学校と山西小学校で行っています。6年生が見られる立場、見る立場の双方になるのは非常に大きいと思っています。教育委員会としては、そういった取り組みを様々なところで広めていく立場だと思っていますので、積極的に周知していこうと考えています。
- （岡野委員） 京都大原学院は、廊下と教室の並びに工夫があり、3・4年生の教室から8・9年生の教室が見える構造で、下級生が上級生の日常的な様子を見ることができるようになっています。学校の作り方も含めて、そういった仕組みの機能を盛り込むことも、小中一貫教育の肝だと感じますので、繋げていけると良いと思いました。

4 付議事項

（1）議案第12号 令和5年度二宮町教育委員会点検及び評価報告書（令和4年度事業分）について

（教育総務課長） 令和5年度二宮町教育委員会点検及び評価報告書（令和4年度事業分）について資料に基づいて説明

- （岡野委員） 点検評価には幾つかポイントがあり、成果を定量化して数字で表すことです。小林委員の意見にもあるように、放課後子ども教室の延べ2,873人という人数を取り上げてくださり、高く評価します、と書いてくださっていますので、数字を共有することは大事なことではないかと感じました。評価についても、Bではなく、Aでもいいのではないかと感じました。評価の指標や成果の捉え方を考えていく必要があると感じました。図書館事業の推進について、今は図書館・本があるところに人が行きますが、その反対は人がいるところに本を届けることです。その2つがあった場合、その中間に当たるものとして、保健センターや学校に蔵書を置き取りにいく、コミュニティバスに本を積んで置くようなことができれば、本の稼働率も上がるのではないかと感じました。貸し出しする場所を固定するのではなく、両方を取り入れるというアイデアもあるのではないかと思います。
- （教育長） 令和5年度分の評価から様式が変わり、定量評価ができるようになります。図書館の活用方法については、リニューアルも考えていますので、社会教育委員会や図書館協議会で検討していければと考えています。
- （生涯学習課長） 図書館はリニューアルする中で、天井工事の必要があり、図書館を閉鎖しなければなりません。その際も予約貸し出しをしなければいけません、岡野委員が

おっしゃったように別の場所を検討しなければならないため、良い機会だと捉えています。

- （教育長） 図書館に出向くことができない方に対して、ボランティア等が届けている自治体もあります。二宮町でもできればいいのですが、人がいないとできないため、実現には難しい状況です。
- （生涯学習課長） インターネットで新刊を注文すると、自宅に届くようになっている世の中で、生涯学習課としては、人が集まり、来たくするような空間を作っていければと考えています。

（教育長） 委員に議案第12号について諮る。

出席委員全員賛成により、議案第12号は承認される。

5 報告・協議事項

（1）令和5年度全国学力・学習状況調査の結果について（速報）

（教育総務課長代理） 令和5年度全国学力・学習状況調査の結果について（速報）について資料に基づいて説明。

- （岡野委員） 未回答無回答に類するものはどのくらいあるのでしょうか。
- （教育総務課長代理） 無回答について、子ども自身は粘り強く全体的に取り組むことができたと書いていましたが、考察の問題も多く時間がかかったためと思います。おそらく時間があれば、無回答率は下がるかと思います。
- （岡野委員） 無回答には2つあり、1つ目はそもそも分からない、2つ目は文章を読み込むスピードが遅く、時間内に答えられないです。例えば、時間を倍にしたら答えることができるのか、問題の意図が分からないのか、そういった調査はできるのでしょうか。
- （教育総務課長代理） 時間が十分だったか、という設問に、十分ではなかった、と答えている生徒は全国より高かったのですが、実際に時間がもっとあれば回答できるかどうかは分かりません。
- （野谷委員） 問題文が長く、考える力を評価する問題が出されています。短い時間で回答するためには、一定程度取り組まないと終えることができない問題についての批判もあります。また、問題の質についてもあるので、再検討をする状況にあると思っています。
- （岡野委員） 文章題で、文節が2つまでなら読み解けるが、文節が3つになると、読んでいる途中で分からなくなるといったことがあるそうです。
- （野谷委員） 塾へ行っている子どもは、対策をしているため、対応ができます。
- （岡野委員） 今の子どもに期待されているのは、その部分の思考力になると思います。点数については、国際競争力という意味では、全国平均より上であれば良いというわけで

はありません。国際的な指標では、日本は上位に入っていない現実があります。将来、そういう海外の子どもと一緒に仕事をするともあると考えると、数年に1回定期的に調査する必要もあるのではないかと感じています。難しい問題とは分かりますが、現実には、国も関係なく仕事をし、その中で自分をどう確立していくかが求められます。

- （教育長） 学力・学習状況調査は、国が作成しているので国内の範疇でしか調査できていません。国際的な競争力を調べるのに、二宮町の子どもを受けさせるのか、というのは難しい状況です。今回の学力・学習状況調査は国内になりますが、過去の成績と比べて大分上がっていると学校長から報告を聞いています。
- （杉本委員） 学校ごとの結果は分かるのでしょうか。学校単位で結果を見ることで、差が縮みやすい教科などが見えてくるのではないのでしょうか。
- （教育総務課長代理） データとしてはありますが、公表はしていません。
- （野谷委員） 結果の数字も大切ですが、数字が独り歩きすることの方が怖いと思います。
- （教育長） 過去問題を練習してから臨む学校もありますが、そういったことをやる必要は全く無いと考えています。子どもの実態の結果を踏まえて、どこに注力すればいいのかを洗い出しするために使うのが良いと考えています。国語、算数、英語だけではなく、他にも必要な力がある中で、これからの社会は、子どもたちが自分にとって個別最適で突き進みたいところは何なのかに注力して学びを深めていくことが大事なことだと捉えています。
- （岡野委員） 理科は隔年でしょうか。
- （指導班長） 3年に1回です。

（2）教育講演会のアンケート結果について

（指導班長）教育講演会のアンケート結果について資料に基づいて説明。

- （野谷委員） 支援教育補助員はその他ではなく、教職員に入れるべきだと思います。
- （教育長） 今後、検討していきます。

（3）その他

－ 次回教育委員会予定 －

（教育総務班長）次回教育委員会議の日程及び出席を要する主な行事について説明。

10時59分 閉会